

二

極秘

自昭和十九年十月一日
至昭和 年 月 日

中三十五軍(尚)経理部作戰命令綴

作戰命令綴

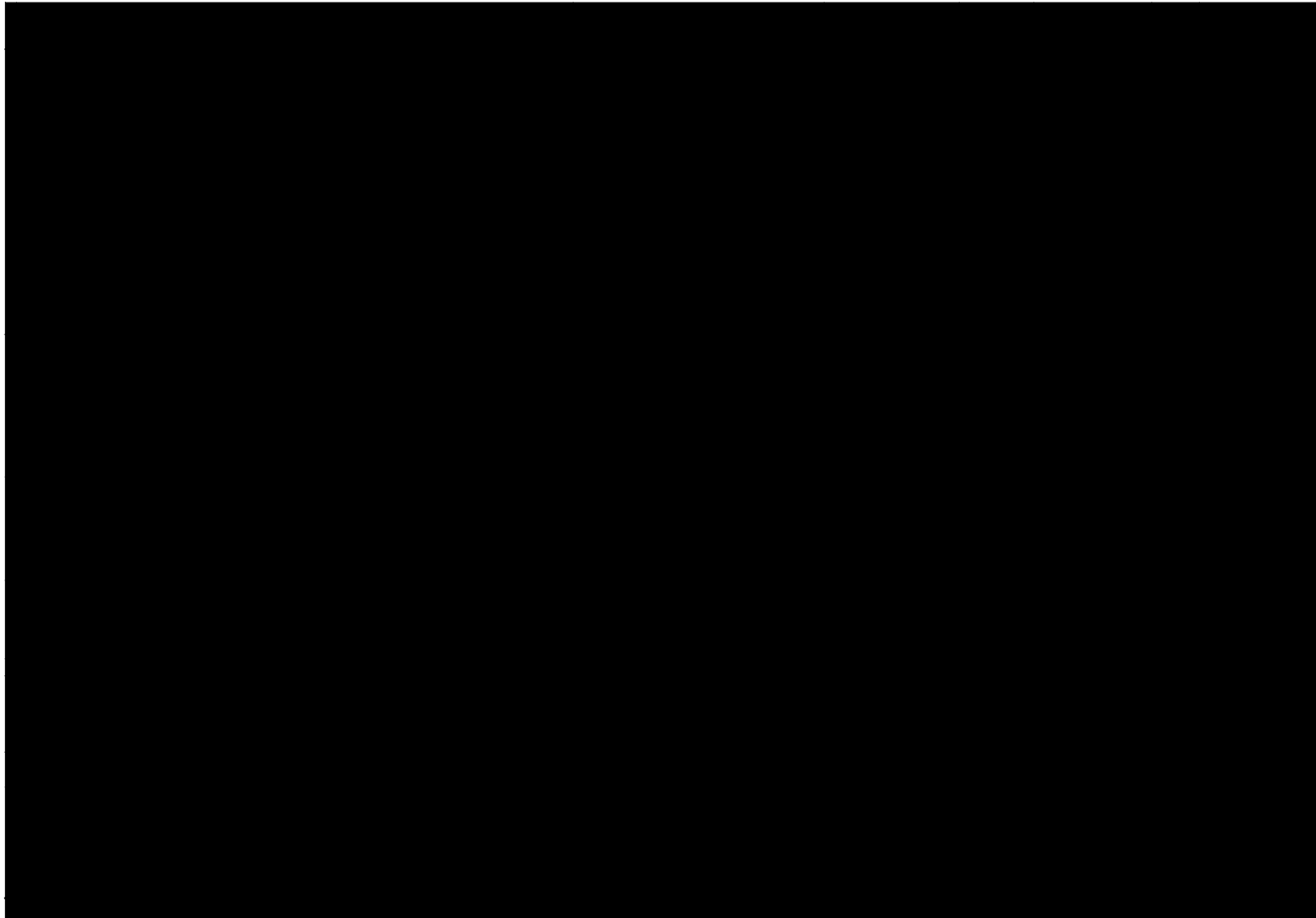
威第六三〇部隊西
中島隊

(351)

27084



0286



0287

渡集終作命第四二號

出所

第十四軍經理部命令

三月二十五日

渡集作命丁第一三五四號ニ基キ對南方補給用比島集積用(大本營豫備)及比島補給用燃料ノ貯油施設急速增強工事ヲ實施セシトス

一 油槽建設班第一班ハ前項工事ニ関シ軍經理

部南部呂宋出張所長ノ區處ヲ受クヘシ

二 南部呂宋出張所長ハ油槽建設班第一班ヲ區

處シ別紙計畫表並要圖ニ基キ担任區域

内ノ貯油槽施設工事ヲ實施スヘシ

三 油槽建設班第二及第五班ハ第一項工事ニ関

シ軍經理部「イロイロ」出張所長ノ區處ヲ受

四月十三日(木) 和ト

五、イロイロ出張所長ハ油槽建設班第二及第五班
 ヲ區處シ別紙計画表並要圖ニ基キ担任
 区域内ノ貯油槽施設工事ヲ實施スヘシ
 六、油槽建設班第三班ハ第一項工事ニ関シ畢
 經理部「カガヤン」出張所長ハ區處受クヘシ
 「カガヤン」出張所長ハ油槽建設班第三班ヲ
 區處シ別紙計画表並要圖ニ基キ担任區
 域内ノ貯油槽施設工事ヲ實施スヘシ
 七、油槽建設班第四及第六班ハ第一項工事ニ
 関シ畢經理部「タハ才」出張所長ハ區處ヲ
 受クヘシ
 八、油槽建設班第四及第六
 班ヲ區處シ別紙計画表並要圖ニ基キ担
 任区域内ノ貯油槽施設工事ヲ實施スヘシ

- α
- 一 工事完成ノ期日ハ別紙計画表ノ通トシ工場倉庫其他附属建物ノ実施ニ関シテハ別ニ指示ス
 - 二 各油槽建設班ハ編成完結後速ニ関係出張所ニ到リ爾後行動ノ指示ヲ受クヘシ
 - 三 給養並宿營ニ関シテハ自隊ニ於テ之ヲ處理シ関係各出張所ハ所要ノ援助ヲナスヘシ
 - 四 細部ニ関シテハ関係各部隊長ニ於テ密接繋スヘシ

第十四軍經理部長 平井大佐

下達法 印刷交付

配布先

參謀部 南部
イロイロカガヤンダバオ
セバ各出張所 第十二野勤務隊本部

0290

部^{30BS}
内^{3/BS}
油槽建設第一二三四五六各班

0291

渡集集作命第四七號

第十四軍經理部命令

四月五日
於マコラ

一渡集作命甲第九六五號ニ基キ飛行場設置ノ急速ナル
促進ツ圖ルト共ニ各飛行場諸施設ノ偽裝遮蔽閉シ
ニ之ガ徹底ヲ期スルノ他作戰展開飛行場ニ展開スベキ地
區關係部隊ノ輸送宿營其他ニ關シ所要ノ援助ヲ與ヘン
トス

二軍經理部各出張所長ハ現ニ實施シツル飛行場設
置ニ關シ其ノ竣功期日ヲ概ネ一ヶ月短縮スル如ク一段
ノ努力ヲ為スト共ニ飛行場諸施設ノ偽裝遮蔽工事ヲ
急速實施シ又尤能飛行場ニ展開スル第十一航空
地區關係部隊ノ輸送宿營其他ニ關シ所要ノ援助

0292

左記

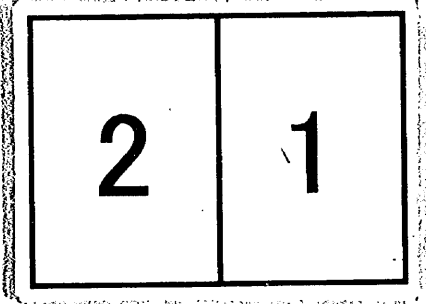
下達法
即別交付
飛押先
參謀部
筆経各出張所
部内各科
○前項偽裝遮蔽工事ハ滑走路ハ植芝又ハ腐
餌沓等散布兵舎ノ屋根等ハ一部塗料ニ
ヨリ大部ハ椰子ノ葉ヲ以テ蔽ヒラナス等現地ニ
即應スル偽裝ヲ實施スルモノトス

第十四軍經理部長 半井大佐

23
156
28
33

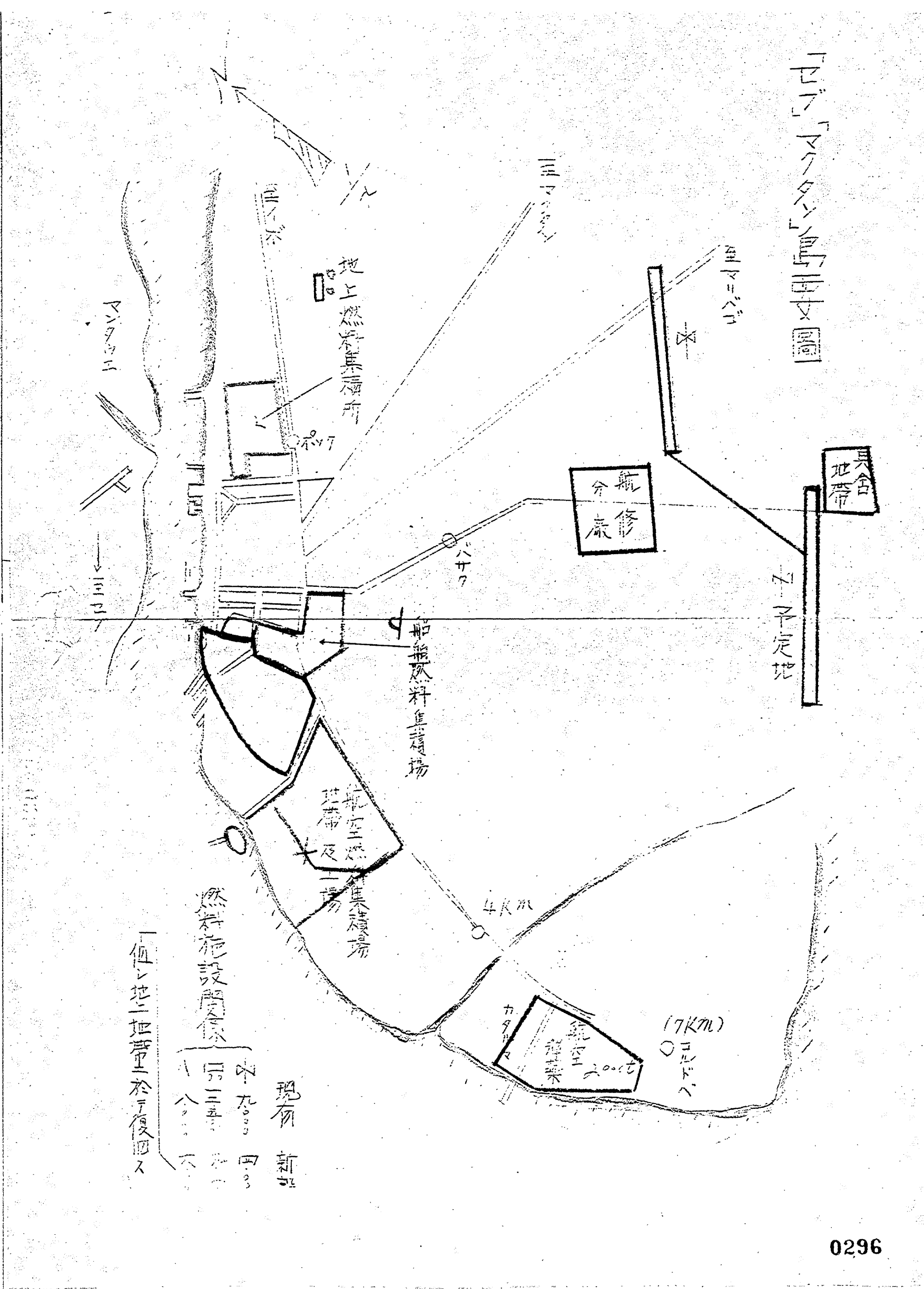
0293

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	燃料貯油槽施設工事計画表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

マミラ 下カン	マミラ 下カン	"	"	"	"	カバ アサ	ホン ア	多 思	カ ヤ	"	イ ロ	"	イ ロ
補 南	補 南	"	"	"	"	補 南	補 南	補 南	補 南	補 南	補 南	補 南	補 南
防 壁	倉 庫	倉 庫	倉 庫	倉 庫	倉 庫	倉 庫	倉 庫	倉 庫	倉 庫	倉 庫	倉 庫	倉 庫	倉 庫
15,000	12,000	23,000	23,000	20,000	20,000	12,000	16,000	2,000	12,000	16,000	2,000	20,000	10,000
第一班	第一班					第四班	第五班		第三班				第五班
第四、六班				第二、五班									

「セブ」マクタン島「セブ」圖

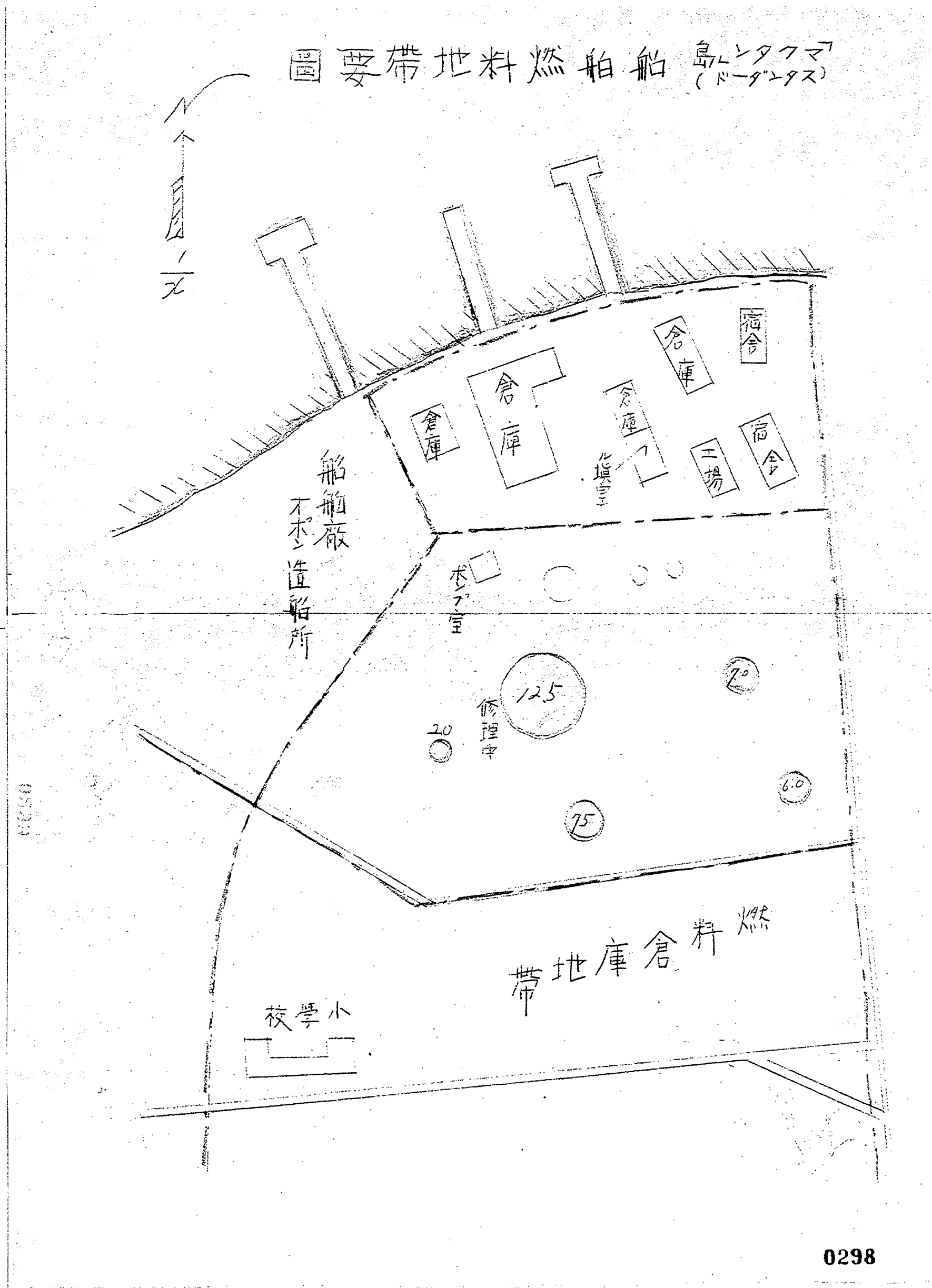


0297

七
ノ
三
張
所

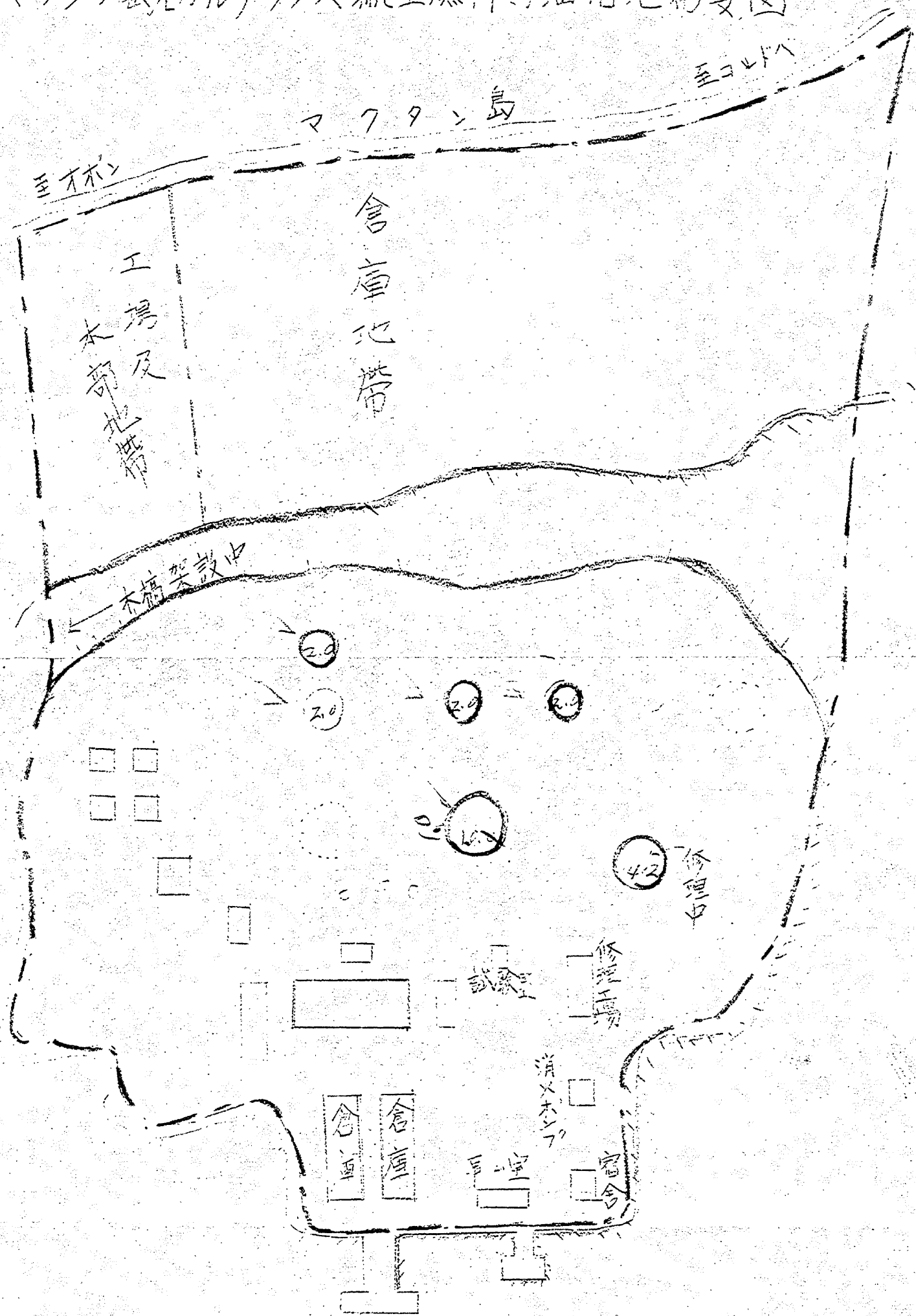
113
130
136
141
147

島ラフマ (ドーダダス) 船舶燃料地帯要図



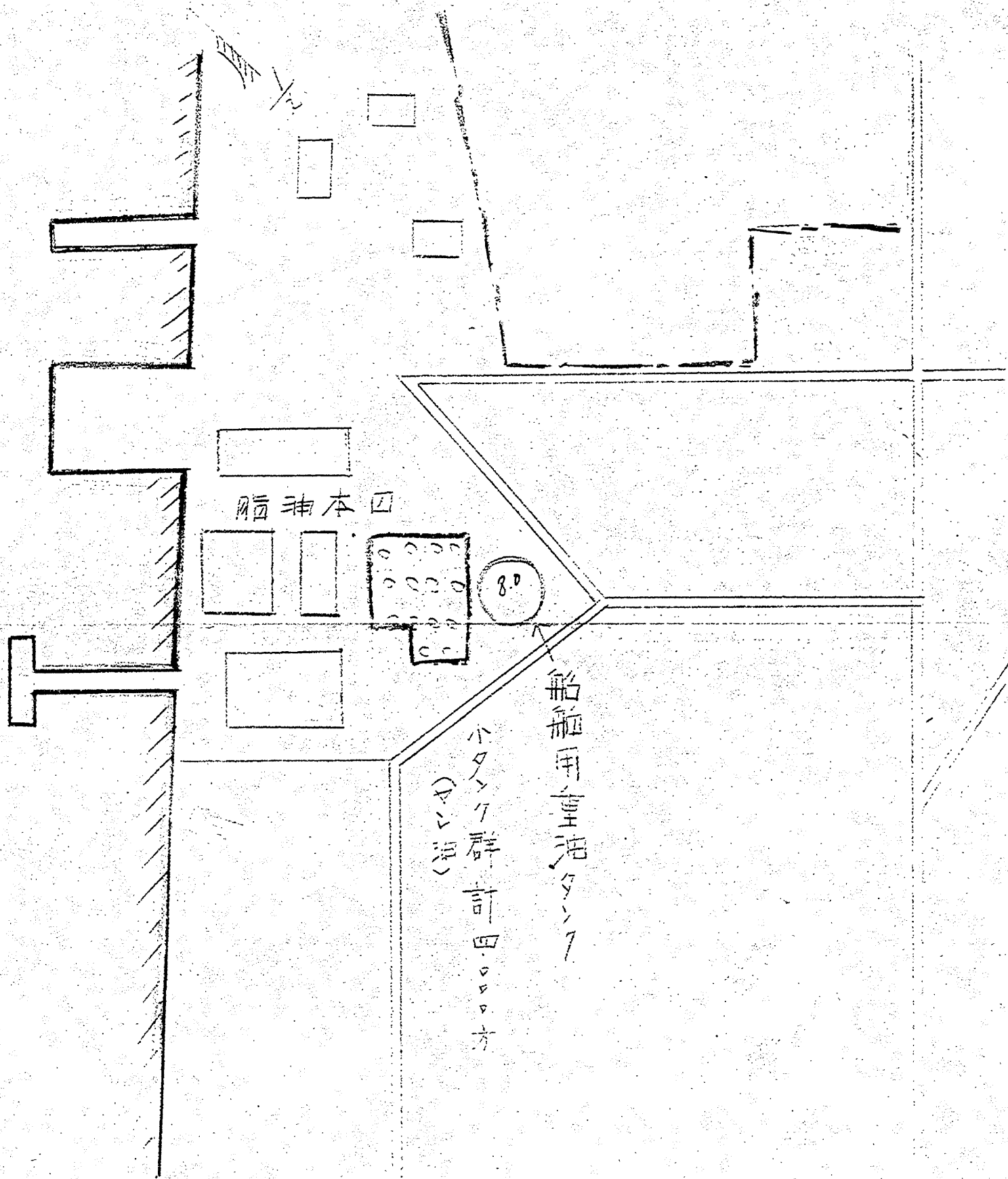
0299

マクタン島カルテックス航空燃料貯油槽地帯要図



0301

マクタン島地上燃料地帯要図
（本油船）



0302

多良島の燃料貯油槽地帯要図



備考

本地区南方のタラシグニ棧橋
ヲ依リタシカシラ着積由ナ
ル場合ハ油槽前ヲタラシグ
ニ設置スルヲ可トス

△ 三〇〇〇

0304

8

1010

尚作命丁第三一號

隊長

尚集團 命 運 令

九月二十八日

連帶

一各兵團長及直轄（指揮下）部隊長ハ別冊第
 一「糧秣現地自活強化要領」ニ基キ遊クモ昭和
 二十年二月末日迄ニ各個ニ完全自活態勢
 ノ確立ヲ期スルト共ニ昭和十九年十月一日以降
 ノ給養ハ別冊第二「決戦糧秣給養要領」據
 ルベシ

ニ各兵團長及直轄（指揮下）部隊長ハ本要領ニ
 基ク實施計畫ヲ十月十五日迄ニ爾後適時其
 ノ成果ヲ報告スベシ

十月三日發行（所）

0305

三各兵團長ハ別ニ示ス所ニヨリ其ノ作戰地域内
ノ産主要物資取得ヲ實施シ又南方軍兵站監
ノ調辦ニ協カスベシ

四細部ニ關シテハ其ノ都度參謀長ヲシテ指示セシ
ム

尚集團長 鈴木 宗作

下違法 印刷交付

配布区分 垣約據拔莖管直轄(指揮下)部隊
報告先 尚武

0306

別冊第一

糧秣現地自活強化要領

第一方針

本土及南方他地域ヨリ糧秣追送中絶シ且比島各地區相互ノ交通杜絶ノ場合ニ在リテモ作戰遂行ニ此モ不安無カラシムル爲本年十月以降決戦給養ヲ實施スルト共昭和三十年二月末迄ニ各兵團ハ各個ニ完全自活態勢ヲ確立シ其ノ作戰地域内治安確立ノ爲民需ノ最限度ヲモ併ニ自給シ以テ綜合戦力發揮ニ遺憾ナキヲ期ス

第二要領

一 軍所要ノ糧秣ハ如何ナル情勢ニ於テモ確實ニ取得シ且兵火ノ爲住民逃亡スルモ收穫ニ支障ナカラシム之爲各部隊ハ直接農場ヲ管理シ所要量ヲ確保スル

0307

モノトス

二各兵團ハ作戰地域内ニ亘ル糧秣自活計畫上ノ諸施
策遂行ニ關シ現地日本側及比島側諸機關ヲ指導
シ之ニ必要ナル一切ノ措置ヲ講スルコトヲ得

三各兵團ハ隸下指揮下部隊全般ノ所要迄ニ作戰地域
内ニ於ケル飛行場設定工事用人夫及其他作戰隊行
上必要ナル民需ヲモ併セ現地ニ於テ完全自活スルモノ
トシ兵團作戰地域内比島政府側地區長官及各州
知事等ヲ指導シ各州ニ割當供出迄ニ増産ヲ實施セ
シム各部隊管理農場生産量ヲ考慮ノ上自給計畫ヲ
策定スルモノトス

四情況ノ變化ニ伴ヒ住民ノ逃亡耕地放棄等ニ因ル生産
減尠ニ生産物ノ隱匿散逸ヲ防止スル爲各兵團ハ常
ニ至嚴強力ナル威カヲ背景トシテ比島側諸機關ヲ

0308

鞭達督勵スルト共ニ時宜ニ依リ自ラ之カ統制指導ヲ
代行スルモノトス

三 各兵團及直轄部隊ノ現地自活ハ昭和二十年二月末迄
ニ逐次完成スルモノトシ此ノ間ノ軍補給率ハ別紙第

一ノ如シ昭和二十年三月以降ハ眞ニ自活困難ニシテ作
戦上必要ナル品種數量ニ限リ軍ヨリ補給スルモノトス

六 兵團及直轄部隊ハ右實施ノ爲細部計画ヲ立案シ
十月十五日迄ニ軍司令官ニ報告スルモノトス

七 本自活ニ伴フ兵團及直轄(指揮下)部隊ニ於ケル實施
要領ハ尚集團經理關係資料現地自活強化徹底要

領ニ依ルモノトス
八 作戦用糧秣ノ集積ハ既計画通實施スルモノトス

0309

知三 細部事項

- 一 歩兵大隊及之ニ準ズル部隊本部以上ニ於テハ現地生産物資ノ長期保存ニ關シ研究ノ上右物資ヲ以テ作戰討伐ニ携行シ得ル如ク工夫スルモノトス馬糧ニ在リテハ特ニ乾燥期用馬糧ノ集積貯藏及兩期ニ於ケル干草調製貯藏ニ留意スルモノトス
- 二 右實施ニ方リテハ原住民ノ實施手法ヲ利用スル外經戰訓熱地給養ノ參考「現地自活提要」上「拉式埋藏飼料製造法」及「半曬酢干草調製法」等ヲ參考トスルモノトス

0310

別冊第二

決戦糧秣給養要領

一、集團（指揮下部隊共）ノ給養ハ明年一月一日ヲ期シ普號定量全年三月一日ヲ期シ銳號定量依リ實施ス

之カ爲本年十月一日以降鈍號定量ニ基點トシ銳號定量ヲ目標普號定量ヲ中間目標トシテ現地物資取得ノ狀況下部隊現地自活ノ成果發現トテ睨合ヒ漸進的定量ノ轉換ヲ行ヒツ、而モ可成速カニ目標ニ到達スル如ク實施スルモノトス

二、普號定量及銳號定量ノ實施ハ前項ニ依ルド雖モ鈍號定量ヨリ普號定量ヘ普號定量ヨリ銳號定量ヘノ切替ハ遲クトモ前者ニアリテハ本年上月末後者ニアリテ

0311

八明三年正月末迄ニ概成スルト其旨食舊馴致ノ完ニ
ルモノトス

三 鈍普銳各號定量ハ中間(漸進間)ニ於ケル給養ノ定量
及方法ノ狀況ニ即應スル如ク兵團長(軍直部隊長)ニ
於テ規定スルモノトス

補給定量ト給養定量トノ差額ハ塵ヲ積ルハ出トナシ
覺悟ヲ以テ畜積ニ軍需品集積ノ殫撻力保持ニ努
ムルモノトス

五 明二十年三月一日以降ニ於ケル一部ノ副食及調味料
等ノ補給ニ際シテハ別ニ定ムルモ局地自活ヲ目標ト
シテ各兵團ニ於テ糶粟ヲ積進以ルルモノトス

六 前各項中兵團長(軍直部隊長)ニ於テ規定スル事項
ハ規定ノ都度及定量轉換ノ狀況ハ毎月末軍司令

官ニ報告スルモノトス
七所定ノ時期迄ニ普號及鏡號定量ニ轉換困難ナル
兵團(軍直部隊)ハ自隊ノ實施可能ナル給養計畫
至^二九^一未^一及現地自活計畫ヲ具シ軍司令官ニ申
請ノ上認可ヲ經テ給養ヲ實施スルモノトス

0313

別紙第一

尚集團常續補給糧秣補給率基準表

區分		補給品目										摘要			
單第(期)自(日)迄(日)		日量										第一(期)自(日)迄(日)日量			
精	米	五〇〇	四〇〇	三〇〇	精	米	五〇〇	四〇〇	三〇〇	精	米	五〇〇	四〇〇	三〇〇	摘要
乾	パン	四六	四六	四六	乾	パン	四六	四六	四六	乾	パン	四六	四六	四六	
正	詰類	二五	二五	二五	正	詰類	二五	二五	二五	正	詰類	二五	二五	二五	塩辛臭ヲ付スルモノアリ
海	藻	三	三	三	海	藻	三	三	三	海	藻	三	三	三	
味	曾	二六	二六	二六	味	曾	二六	二六	二六	味	曾	二六	二六	二六	砂糖ヲ代用スルモノアリ
食	塩	二五	二五	二五	食	塩	二五	二五	二五	食	塩	二五	二五	二五	
砂	糖	二〇	二〇	二〇	砂	糖	二〇	二〇	二〇	砂	糖	二〇	二〇	二〇	砂糖ヲ代用スルモノアリ
甘	味品	二〇	二〇	二〇	甘	味品	二〇	二〇	二〇	甘	味品	二〇	二〇	二〇	
煙	草	四	四	四	煙	草	四	四	四	煙	草	四	四	四	砂糖ヲ代用スルモノアリ
穀	類	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	穀	類	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	穀	類	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	
馬	糞	五〇	五〇	五〇	馬	糞	五〇	五〇	五〇	馬	糞	五〇	五〇	五〇	砂糖ヲ代用スルモノアリ
ホ	シ	四〇	四〇	四〇	ホ	シ	四〇	四〇	四〇	ホ	シ	四〇	四〇	四〇	

備考

一 昭和二十年三月一日以降特別ノ場合及一部特殊ノモノヲ除キ
 補給ヲ行ハス
 二 水表面積種数量ハ状況ニ依リ増減スルコトアリ此ノ場合
 三 於テ増加セラレタルモノハ豫備トシテ畜積シ減少ノ場
 合ノ補足ニ充ツ

第一表 糧秣決戦定量表

考 備	加給品	熱量	調味品			野菜類			肉類			穀類			区令給養品種		
			煙草	砂糖	食塩	漬物類	乾野菜	生野菜	豆類	魚類	畜肉	新穀	甘藷	玉蜀黍	精米	位	單
			四	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	四
<p>一 本表ノ品種數量ハ給養ノ標準ヲ示スモノシテ全般的ニ代替品ヲ使用スルヲ得特ニ熱量ノ低下ヲ来ササル如クスト共ニ栄養素ノ配合ヲ適切ナラシムルモノトス</p> <p>二 本表ノ外生果實、香料等ヲ給養シ得ルモノトシ之カ定量ハ現地ノ状況ニ應ジ兵團長ニ於テ適切ニ規定スルモイ</p>	煙草	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
	砂糖	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
	食塩	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
	漬物類	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
	乾野菜	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
	生野菜	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
	豆類	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
	魚類	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
	畜肉	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
	新穀	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
	甘藷	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
	玉蜀黍	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	
精米	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇		

0315

別紙第三二
二、第二表 馬糧

粟	穀		類										一馬日量	換	給	量	摘		
	品	種	種	類	類	類	類	類	類	類	類	類						類	類
品	燕麥	大麥	干草	米	干草	玉蜀黍	豆類	粟	玄米	干草	干草	干草	干草	干草	干草	干草	干草	干草	干草
種	一内	一内	四〇〇〇斤	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
数	五〇〇〇斤	五〇〇〇斤	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
量	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
換	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
給	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
量	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
摘	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

備考
 本表品種数量ハ給飼ノ標準ヲ示スモノニシテ穀類類共ニ適當ナル品ヲ使用スルヲ得特ニ澱粉質ノ低下ヲ來サシムル如クスルト共ニ換給代飼料ノ配合ヲ適切ナラシムルモノトス
 二、本表ハ日本以テ給飼ヲ標準トス依テ現地馬及之ニ準ズル馬格及飼習慣ニ應ニ減量スルヲ通常トス

機密

尚經依命第ニ〇號

尚集團經理部命令

九月二十日
「セ」

一集團經理部ハ尚作命丁第三十九號ニ基キ「マ
スバテ」ヨリ「グインナマイト」其他附屬品ヲ「セブ」ニ
搬入セントス

二「セブ」出張所長ハ要員ヲ現地ニ派遣シ在「マスバ
テ」島警備隊長ヨリ「グインナマイト」約五十屯及ビ
附屬品等ヲ受領シ成可速ニ「セブ」ニ搬入スベシ

三垣兵團長ハ在「マスバテ」島警備隊長ヲシテ前項
資材ノ搬出等ヲ援助セシム 尚船舶隊ハ「マスバテ」
「セブ」間ノ海上輸送ヲ担任スルニ付密ニ連絡ス

0317

〆〆

尚集團經理部長 平井大佐

下達法
口達後印刷交付

配布先
セブ 出張所 各科

(通報)
(垣、尚船舶隊 參謀部、兵器部、尚武經理部)

0318

尚作命丁第二九號

尚集團命令

九月五日
三〇〇

一、集團ハ「マスバテ」島ヨリ「ダイナマイト」其、他
附屬品ヲ「セブ」ニ搬入セントス
二、垣兵團長ハ在「マスバテ」島警備隊長ヲシテ
「アロイ」ン「ダイナマイト」約五十吨及附屬品
等ヲ「マスバテ」ニ於テ、集團經理部長ニ交
付スルト共ニ其ノ「マスバテ」ヨリノ搬出ヲ
援助セシムベシ

三、集團經理部長ハ前項資材ヲ成ルベク速カ

0319

ニセブニ搬入スベシ

四 尚船舶隊長ハ前項資材ノマスバテ、セブ

間ノ海上輸送ヲ處理スベシ

五 細部ニ關シテハ相互協定スベシ

尚集團長 鈴木宗作

下 違法印刷交付(垣ニ要旨電報)

配布先 垣 尚船舶隊 經兵

報告先 堂武

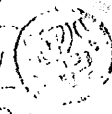
0320

軍事極秘

尚書佐命兼第一師團

尚書佐命兼第一師團司令部

昭和二十一年四月一日



一 集團經理部ハ日本陸軍ノ事務ニ由リ停止ニ伴ヒ該工

事要員之ヲニラシニ歸還セシムトス

ニセブ出張所長及夕バオ出張所長ハ夫々左

記人員ヲ速ニラシラシニ歸還セシムル尚武集團經

理部長ノ指揮下ニ入ラシムヘシ

指揮轉移ノ時期ハセブト港出發ノ時トス

丁卯五月廿一日(和)

0321

左記

一、セブ島系前勤務

岩淵 信、高橋 宗之助、崎原 重太郎

「ダバオ」出張前勤務

岩手 五男、大友 隆、鳥 森 依

三井 俊吉

尚集團 經理部長 早井 大佐

下達法 要旨に連系世報後印刷

配布(通報)先 尚興経理部 出張前 各1出張所各1

0322

軍事機密

尚經作命第二五號

尚集團經理部命令

十月五日

日

進中

歸還セシメントス

一、集團經理部ハ油槽建設工事要員ノ部ヲ「マニラ」ニ

「セブ」出張所長ハ左記要員ヲ速カニ「マニラ」ニ歸還セシ

メ、尚武集團經理部長ノ指檢下ニ入ラシムヘシ

指檢下ノ時期ハ「セブ」港出港特トス

左記

「セブ」出張所勤務「石北聯合」セブ出張所従業員

陸軍信託局

清水晴太郎

清水晴太郎

0323

加藤徳太郎

秋山幹雄

鈴木七五郎

市川國雄

尚美堂総理部長 立平大佐

下達法 要旨口達後印刷交付

配布先 日本各派所 参謀部

通報 尚武総理部

0324

師長

連署

陸軍機密

尚作命 申第四五號

尚集團 命令 十月五日 三〇〇〇

一 集團ハセブ地区防衛部署ノ一部ヲ變

更セントス

ニセブ地区防衛地帯ヲ左ノ如ク擴張ス

コトハスキラ、オアスツリアス、ヒ、連スル線以南、カルクアル

ロガンサイ、ヲ連スル線以北、セブ島及マクダ島

トス

ニセブ防衛司令官ハ十月十五日正午以降

十月十五日正午以降

0325

マンダウ北側小流(含ハ六千萬分一地圖ニ據ル)
 以北ノ地區特ニ貨物廠ノ警備ヲ鬼頭部隊
 ニ擔任セシメ該地區ノ大西部隊ヲセブ市附
 近ニ集結スベシ
 又逐カニ防衛地帯内特ニセブノ西側山地ニ蠢動ス
 ル兵匪ヲ掃蕩スベシ之カ爲予ノ認可ヲ受ケ
 在セバ練下及指揮下通過滯留部隊ヲ指
 揮スルコトヲ得

尚集團長 鈴木宗作

下道波 濱田文府
 既先 坂野司
 報告獨報先 尚武
 鬼頭部隊 在セブ部隊
 尚船船 三三根

0326

尚集經セ出作命第二號

尚集團經理部セ出張所命令

一九九〇年九月

隊長

連帶

一、出張所ハ尚經作命第一號ニ基キ「タクロバ」地区ノ油

槽建設工事ヲ中止セントス

二、吉田隊ハ油槽建設ヲ中止シ「セ」ニ帰還スヘシ

三、森軍曹ハ第六油槽建設班ヲ指揮シ尚武集團經理

部ニ復歸スヘシ

四、第六油槽建設班

指揮 転移ノ時期ハ「オルモック」乗船

ノ時トス

尚集團經理部セ出張所長 田村建技大尉

下達法 要旨電報後印刷交付

送信先 吉田隊

森班

0327

所長

連帶

尚集經セ出作命 第壹號

尚集團經理部セ出張所命令

一九〇〇年ハ
ヲセブ

一、出張所ハ急速ニ社屋施設ノ強化、軍需品ノ高度分散並ニ現地自給ヲ實
施セントス

(應急)

二、堀口軍營ハ速ニ工事用資材器具全部ヲ整理分散スヘシ
農具及櫛、櫛類ハ寺西枝手ニテ監守スルモノトス

前項分散ハ十月二十五日迄ニ完了スヘシ

三、寺西枝手ハ目下軍經理部ニテ周知中ノ農場ヲ引継キ差向キニ〇〇
名分ノ糧食自給ヲ目途トシテ速ニ製作ヲ實施スヘシ

四、田中枝手ハ第一第三項ニ必要ナル施設ヲ急速實施スルト共ニ宿舍及作
業場所並ニ倉庫ヲ計画及一初歩務者ノ待避壕ヲ構築スヘシ

前項施設ハ十月三十一日迄ニ概成スルモノトス

五、細部ニ関シテハ別ニ指示ス
下達法 口達後印刷交付

陸軍

0828

東京小津橋

尚經出作命第三號

尚集團經理事部出張所命令

一九一〇、二五
於セブ

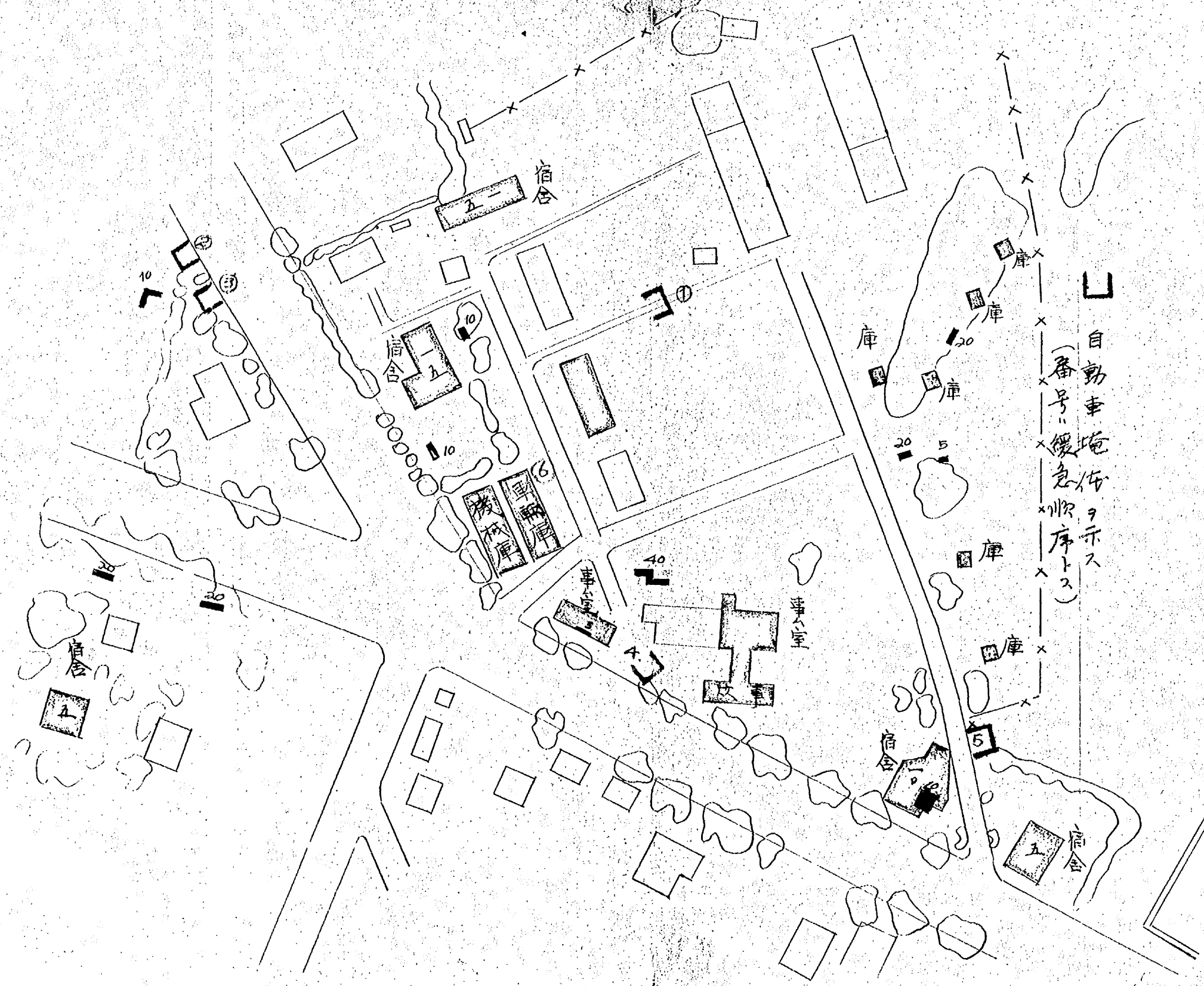
所長

連帶

- 一、出張所ハ自動車ノ好爆施設ノ強化ヲ實施セトス
- 二、寺西技手ハ別紙要圖ニ基キ自動車十二車輛
格納掩体工事ヲ實施スヘシ
- 三、癸車ノ處分ヲ言ムモノトス
- 三、技料及工務各班長ハ前項工事ヲ援助スヘシ
- 四、十一月十五日迄ニ前項工事ノ二分一残部ハ十月
末日迄ニ完成スヘシ
- 五、細部ニ關シテハ遺テ指示ス

0329

車輛掩体配置圖
一九四二年



21

所長

尚經セ出作命第四號

尚集團經理部セ出張所命令

一九一七
於セブ

連帶

一、出張所ハ戦時補給隊作戦準備ニ着手セントス

二、寺西技手ハ測量班（警備兵三、助手二、自動車手一、

比入技師二、全助手二）ヲ区域ニ十一月十日迄ニ指定

地域ノ測量ヲ完了スヘシ

三、細部ニ関シテハ別ニ指示ス

0331

防作命第六一號

防衛命令

十一月十六日
比島

一 防衛司令部ハ海上輸送第八大隊ノ輸送ニ協力ス

二 尚經理部並ニ旅團司令部ハ自動車各一(操縦手ヲ附ス)ヲ第一項輸送ニ協力セムヘシ

三 細部ハ別ニ指示ス

防衛司令官 方城目大佐



下達
配布

下達後印刷配布
海上輸送ノ大隊

為修理部

0332

セブ防作命第八七號

防衛命令

十一月十日

陸軍

一、軍經理部「セブ」出張所長ハ速カニ建築勤務第三十七
中隊第一小隊ノ一部ヲ以テ陸軍病院陣地内ニ患者
收容施設ヲ構築スヘシ

二、大西部隊ハ現ニ保管依托中ノ航空不適燃料十缶ヲ
軍經理部ヘ交付スヘシ

三、軍經理部「セブ」出張所長ハ右燃料ヲ使用セハ其ノ都度
報告スヘシ

防衛司令官 刀城目 大佐

下達法 印刷交付

配布先 陸軍病院 軍經理部「セブ」出張所長 大西部隊

報告先 35A 33根

チヨウ

0333

尚経と出作命カ五早

尚集團經理部セガ出張新命令

一九三二
年三月
二日

一セブ 防衛作命カハ七早ニ基キ陸軍病院陸部

内ニ患者收容施設ヲ急遽構設セントス

二 建築勤務務第三七中隊カ一小隊長ハ小隊ノ一部

ヲ以テ之則頭ノ事ヲ担任實施スルニ

三 前頭ノ事期日ハ概ネ七日間トス

四 細部ハ現地ニ於テ鶴井技師ヨリ指示セム

尚集團經理部セガ出張新命令

下達法 口達後印刷文附

0334